

明治維新と神代三陵

— 廃仏毀釈・薩摩藩・国家神道

くぼ そういちろう

窪壮一朗著 ▼46判・並製カバー・239頁・定価一、八七〇円



明治政府はなぜ「神」の墓に神代三陵を定めたのか。近代宗教行政史を薩摩藩から読み解き、神話が現実化していく過程を明らかにする。

【目次】

序章 レヴィーIIストロースの称讃

第一部 神代三陵の政治的意味とその確定過程

- 第一章 天皇陵の再創造
- 第二章 「文久の修陵」と宇都宮藩の危機
- 第三章 「万」彼奸賊山陵修復等を企候はば
- 第四章 神話は現実化していった
- 第五章 薩摩藩と神代三陵
- 第六章 江戸時代の合理的精神
- 第七章 島津久光と明治政府の対立

第二部 田中頼庸と廃仏毀釈

- 第一章 嘉永朋党事件と国学の弾圧
- 第二章 田中頼庸と幕末の国学
- 第三章 薩摩の国学と廃仏毀釈
- 第四章 神道国家薩摩
- 第五章 皇軍神社と新しい神道
- 第六章 高屋山上陵の変転

第三部 薩摩藩と教部省

- 第一章 国学者の敗北
- 第二章 神祇官復興・薩人尽力
- 第三章 空前絶後の陵墓大量確定の中で

第四部「神の国」への歩み

- 第一章 三島通庸の「黄金の神殿」
- 第二章 作り変えられた伊勢神宮
- 第三章 保守主義者「玩古道人」
- 第四章 国史編纂の挫折
- 第五章 「聖国の聖地」を巡る鹿児島と宮崎の争い

終章 神話を再び神話へ

参考文献一覧
神代三陵関係年表
あとがき

◆著者略歴

窪壮一朗(くぼ そういちろう)
一九八二年鹿児島生まれ。東京工業大学理学部数学科卒。二〇〇四年文部科学省入省、二〇〇八年退職。鹿児島県南さつま市大浦町に移住し、「南薩の田舎暮らし」の屋号で柑橘栽培を中心とする農業・食品加工業・ブックカフェ営業を手がける傍ら、郷土史や幕末以降の宗教行政史を研究。著作に『鹿児島西本願寺の草創期―なぜ鹿児島には浄土真宗が多いのか―(私家版)がある。』(ブログ「南薩日乗」運営)。

注文書	
(書店印)	
ご担当	様冊
窪壮一朗著	
法藏館	
定価一、八七〇円	
住所	
窪壮一朗著	
明治維新と神代三陵	
廃仏毀釈・薩摩藩・国家神道	
ISBN: 978-4-8318-5567-1 C0021	
お名前	お電話

ご注文はFAX: 075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

日本史・近代史